

市政トピックス

片平公園に記念碑を設置しました ―野球の試合前挨拶発祥の地

野球の試合前挨拶発祥の地とされる片平公園(旧制二高グラウンド跡)に、その史実を記した記念碑を設置しました。

高校野球などの大会で、試合開始前に両チームがホームベースをばさんで一礼する選手同士のあいさつは、明治44年に旧制二高グラウンドで開かれた「第一回東北六県中等学校野球大会」において初めて実施され、その後全国に広まりました。これにより、令和4年に日本野球機構等が実施した、野球伝来150年記念事業「聖地・名所150選」に、片平公園が選出。仙台市政だより令和5年1月号に掲載したサンドウィッチマンの二人と市長との対談の中で、お二人からこのエピソードが紹介され、これを機に、市では記念碑につい



▲記念碑のお披露目式で、試合前のあいさつを実演する片平レッドホークスの皆さん

て検討し、今回の設置に至りました。

11月4日には、片平公園で記念碑のお披露目式が行われ、野球郷土史家の伊藤正浩さんによる解説の後、地元少年野球チーム「片平レッドホークス」が、試合前のあいさつを実演。子どもたちの大きな声が響き渡ると、会場は温かい拍手に包まれました。

市政トピックス

観光アンバサダーが 仙台の魅力発信

市は、仙台のまちの多彩な魅力を広く発信するため、仙台観光アンバサダーを務めるサンドウィッチマンのお二人を起用した観光ガイドブックと、羽生結弦さんが出演するプロモーション動画を制作しました。

「仙台サンドめぐり」と題した

市政トピックス

市政トピックス

海岸防災林が自然共生サイトに認定

東日本大震災により甚大な被害を受けた仙台東部地域一帯のみどりを市民の手で再生する取り組み「仙台ふるさとの杜再生プロジェクト」の海岸防災林が、10月25日、国内初の「自然共生サイト」に認定されました。

この制度は、地方公共団体や民間等の取り組みによって生物多様性の保全が図られている区域を、環境大臣が「自然共生サイト」として認定するものです。「仙台ふるさとの杜再生プロジェクト」の海岸防災林は、植樹会や育樹会をはじめ、自然をフィールドとした防災学習等を行いながら、生物多様性の豊かな防災林を、市民協働で育成する活動であることが評価されました。

自然共生サイトに認定されることで、区域の生物多様性の維持や質の向上が促進され、2030年までに陸と海の30パーセント以上を健全な生態系として保全しようとする世界目標「30 by 30」(サステイナビリティ目標)の達成に貢献することが期待されています。市では、今後も生物多様性の保全に向けて、より一層努めていきます。



▲タイトルの「#ただいま仙台」は羽生さん直筆のもの

市政トピックス

アカプルコ市との姉妹都市提携50周年を迎えました

本市とメキシコ合衆国・アカプルコ市は、慶長19年に慶長遣欧使節がアカプルコ市に到着したという歴史的な縁から、昭和48年に国際姉妹都市協定を締結し、今年で50周年を迎えました。

これを記念し、市では、10月にアカプルコの魅力を伝える写真展を開催。11月4日・5日には都内にあるメキシコ大使館のシェフを講師に迎え、「メキシコ・アカプルコの味を知ろう」と題した料理教室を行いました。



▲完成した料理を、各グループで実食

料理教室には親子連れなどが参加し、シェフがアカプルコの食文化とともに野菜等を使った料理を紹介しました。実習では、参加者がアボカドとトマトを使ったディップや、白身魚にライムを搾ってあえるマリネなどを作り、自由な雰囲気の中で調理体験を楽しんでいました。参加者からは「料理を通じて文化的背景を知ることができて良かった」「本格的なメキシコ料理を学べる貴重な体験だった」等の感想が聞かれました。

市政トピックス

優れた技能と長年の 功績をたたえて

市では、長年にわたり優れた技能で市民生活を支え、仙台のまちづくりの基礎を築いてきた技能職の方々を技能功労者として表彰しています。11月13日に行われた技能功労者表彰式では、24職種36人の方々に表彰しました。表彰された方は次のとおりです(順不同・敬称略)。

- 〔石工〕 鈴木伸英〔印刷製版製本職〕 菊地淳〔菓子製造職〕 佐藤明〔ガラス職〕 山田久和〔左官職〕 鎌田正弘、杉目伸明〔写真師〕 加藤真〔鍼灸マッサージ師〕 北独〔造園職〕 内海一富、高野徹〔大工職〕 猪股宏征、八木一哉、佐藤美弘〔畳職〕 堀籠宣雄〔建具職〕 澁木勝人〔調理師〕 三善文樹〔電気工事職〕 千葉恒一、浅野保二、川野隆〔塗装職〕 山内正和〔とび職〕 細谷地勇、本田幸雄〔配管職〕 安曇直人〔板金職〕 六戸勝之〔表具職〕 藤村久〔美容師〕 及川郁子、柴田克裕〔ボイラー整備士〕 中津川昭〔理容師〕 工藤弘恵、鈴木揚子〔フローリスト技能士〕 半澤朋子、見上弘康〔鉄筋工〕 鈴木秀輔、菊地敏昭〔解体工〕 鱒沢英二、大森進

市長コラム

春夏秋冬

仙台市長 郡 和子

文化芸術の力で誰もが輝けるまちへ

本市では、文化芸術が持つ多様な力をまちづくりに生かそうと、「(仮称)仙台市文化芸術推進基本計画」の策定を進めています。ちょうど今、中間案に対するパブリックコメントを実施中です。そこで、今回は文化芸術について、中でも障害のある方の活動を取り上げることになりました。

9月に東京で開催された障害者の国際舞台芸術コンクール「ワールドコンサート」20周年記念大会で、仙台市出身の「笙 Y.U.U.」さん(高橋由宇さん)が、グランドチャンピオンに選ばれました。審査員長の湯川れい子さんは「笙」という、メロディーを立てて演奏するのが難しい楽器で、聴く者の心のカーテンを広げるような力強さ、もはやプロになるしかない人」とコメントしています。笙 Y.U.U.さんは、ウィリアムズ症候群という障害があるのですが、和楽器「笙」を操り、クラシックやジャズなどの他、オリジナル曲で演奏活動を続けています。カーネギーホールで演奏したこともあるとのこと、世界でのさらなる活躍を期待しています。10月、せんだいメディアアテ

クでは、「Art to You! 東北障がい者芸術全国公募展」が開かれ、内閣総理大臣賞をはじめ、絵画等の受賞・入選作品が展示されました。色彩や構図、緻密さ等独創的な力強い作品の数々は、見る人の心をわしづかみにし、仙台の芸術の秋を彩る人気の展覧会に成長しています。10周年の記念公募展となる来年は、海外からも作品を募ろうと準備が進められています。これまで日本では、障害者の表現活動について、文化芸術の枠組みではなく福祉や教育の観点で語られることが多かったように思います。しかし、その個性からふつと湧き上がる表現の数々は、かけがえのない価値を持つものとして評価され、最近では作品として販売につながるケースも広がってきました。芸術には障害の有無は関係ない、そして私たちは、感動によってより深くその人を理解していく。だから、「あらゆる人に参加機会がひらかれ、文化芸術に親しめるまち」、そして「多様な個性が輝くまち」を目指さなければと思うのです。中間案への皆さまのご意見をお待ちしております!

● 次回の掲載は3月号を予定しています